

# NDBレセプトデータから推定した 都道府県別の小児の入院延べ日数

広島国際大学 医療経営学部

江原 朗

# 背景

- 病院小児科が年々減少していることが報じられているが、小児の入院傾向に関しては十分な知見がない。
- 患者調査：10月の特定の1日間の入院患者数、9月の1か月間の退院患者数の記載であり、**季節変動が不明**。
- NDBデータベース：「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づいて整備。
- NDBの一部公開：平成28年10月～。

# 目 的

- NDBデータを用いて，都道府県ごとの小児人口当たりの延べ入院日数および延べ日数からみた病棟規模別の入院比率を推定する

# 方 法(1)

## 小児入院医療管理料算定病院

- 小児入院医療管理料1～5の延べ入院日数は、NDBデータベースから引用
- 年齢別の延べ入院日数は非公開
- しかし、小児入院医療管理料(入院1日ごとに算定)の総算定回数が都道府県別、1から5の区分ごとに示されている。

# 小児入院医療管理料の施設基準 (主な項目, DPCでも出来高評価)

施設基準	管理料 1	管理料 2	管理料 3	管理料 4	管理料 5
小児科常勤医	20名以上	9名以上	5名以上	3名以上	1名以上
	入院患者 7 対 看護師 1 以上	入院患者 7 対 看護師 1 以上	入院患者 7 対 看護師 1 以上	入院患者10対 看護職員 1 以上	入院患者15対 看護職員 1 以上
看護体制	複数の看護師の 夜勤 (常時9対1以 上)	複数の看護師の夜勤		(7割以上が 看護師) 複数の看護職員の夜勤	(4割以上が 看護師)
入院する病棟	15歳未満 専用	15歳未満 専用	15歳未満 専用	小児病床 10床以上	-

## 方 法(2)

# 小児入院医療管理料未算定病院

- 小児入院管理料を算定しない出来高病院における小児の延べ入院日数は不明.
  - 6歳未満の入院に関しては、乳幼児加算・幼児加算（6歳未満の入院1日ごとに算定）の総算定回数の記載がある。
  - 出来高による小児の延べ入院日数は、NDBデータベースの0～4歳の乳幼児加算・幼児加算の算定回数に（0～14歳/0～4歳）の入院の比率（平成26年患者調査）を乗じて推定した。

# 0～14歳の延べ入院日数の推定 (小児入院医療管理料未算定病院)

項目	人数ないしは延べ日数
推定入院患者数 (人/日)	
A) 0～4 歳	17,900
B) 0～14 歳	28,100
C) 0～14 歳/0～4 歳	1.570
D) 乳幼児加算・幼児加算回数	1,613,085
C) × D) 0～4 歳の乳幼児加算・乳児加算から推定する	
14 歳以下の出来高延べ入院日数	2,532,273

0～4歳、0～14歳の1日間の推定入院患者数は平成26年医療施設調査による。

# 成 績

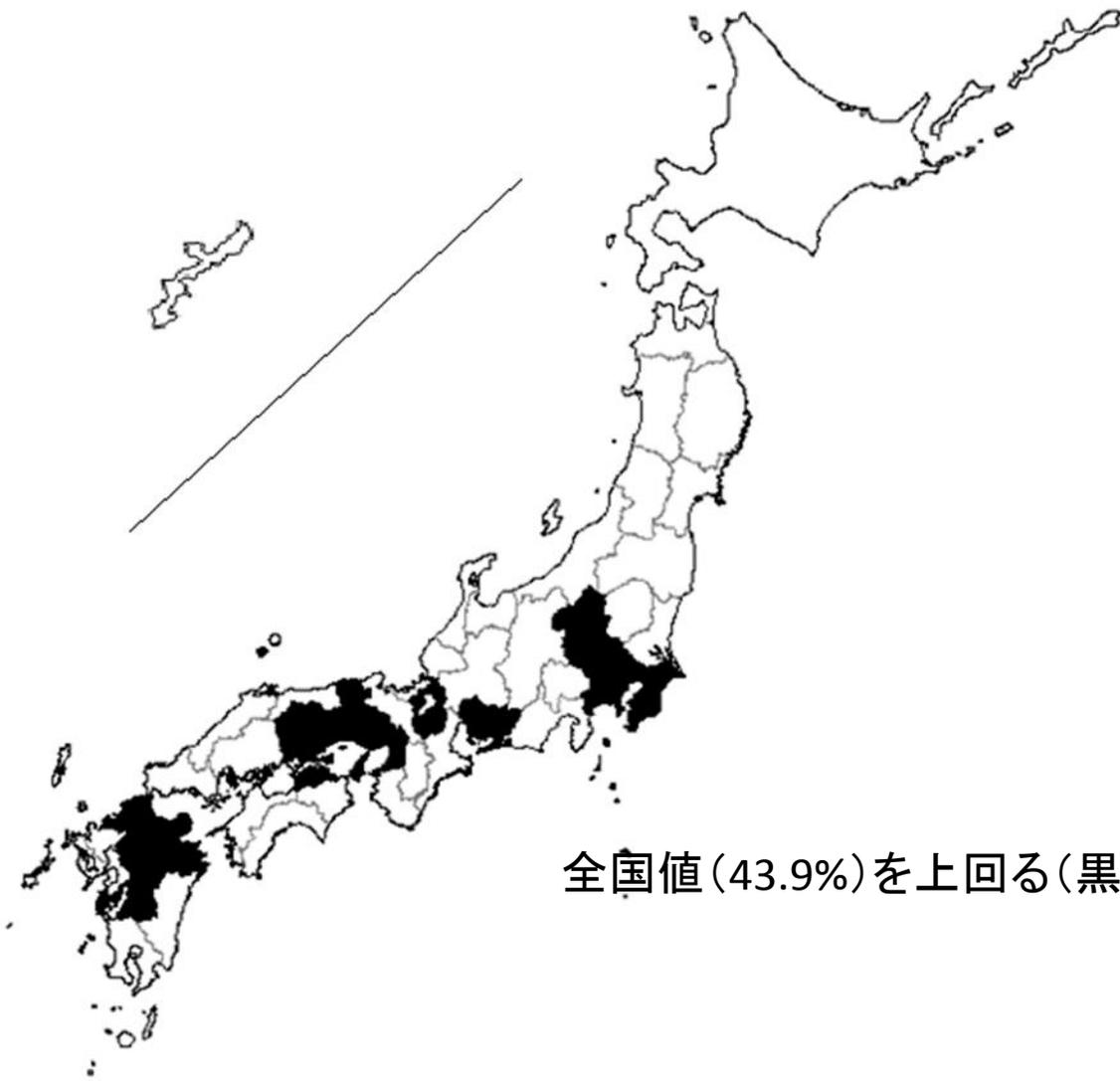
- 15歳未満人口1000人あたりの延べ入院日数は年間480日であり、関東以西で全国値を下回る県が多かった。
- 病院小児科の規模別の延べ入院日数を解析すると、管理料1～3(常勤小児科医5人以上)の病院への入院比率が全国値(43.9%)を上回るのは、東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、岡山、福岡、熊本などの政令指定都市を含む都府県やその周辺の県であった。

# 延べ入院日数



全国値(480日/千人)を  
上回る(白), 下回る(灰色)

# 小児入院医療管理料1～3 算定病院への小児の入院比率



全国値(43.9%)を上回る(黒), 下回る(白)

# 結 論

- 小児の延べ入院日数が東日本で長かった.
- 大規模な病院小児科への入院比率が西日本で高かった.
- この研究は、平成28年度厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業「地域における小児医療提供体制に関する研究」, H28-医療-一般-010)の助成を受け、実施した研究の成果です。
- 利益相反に関する開示事項はありません。江原朗が研究のデザイン、資料の収集、解析および執筆を行いました。